



「新防災教育副読本を活用した指導事例」

学校名 [通町 小学校] 氏名 [教諭 関 昭徳] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [つなみについて知ろう] P 26～27 教科・領域名 [学級活動] [時間 45 分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
1 復興ソング「希望の道」を歌う。 2 津波について知っていることを話し合う。 ○東日本大震災では、大きな津波が仙台市を襲いました。津波についてどんなことを知っていますか。	○学習の意義を伝える。 ○防災読本の写真を拡大して提示。 津波について写真を提示して実感させる <ul style="list-style-type: none"> ・速さ…オリンピック選手 ・高さ…校舎4階で10mになること ・強さ…倒壊したビル ・津波が川を遡上する写真ことを示す航空写真 (石巻市大川)
2 資料 (P26) を読み、分かったことをまとめる。 ○津波の速さや高さ、力について、資料を読んで分かったことをまとめましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・つなみは猛スピードでやってくる ・とても高くなることがある。 ・強い。 	
3 津波から身を守るための「4つの約束」の意味について考える。	4つの約束の意味を考えさせることで、津波から身を守る方法の理解を深める。
① 「少しでも早く海から遠いところへ逃げる」のはなぜでしょう。 ② 「より高いところへ避難する」のはなぜでしょう。 ③ 「その後も絶対海に近付かない」のはなぜでしょう。 ④ 「川から離れる方向に逃げる」のはなぜでしょう。	 ○今は川のそばや海辺に住んではいないが、行くことや住むことがある。
4 これからの決意や感想 「津波が起こったことを知ったらすぐ逃げる」 「津波は速い・高い・強い」	授業参観で学習を行った。学校での防災に対する教育内容を保護者に知ってもらえる効果はあった。復興ソングに込められた思いを担当が解説してから学習を始めたことで、津波を直接被災していない児童でも真剣に取り組む姿が見られた。
2年生の児童は、防災読本の資料を読み取ることに時間がかかった。津波のイメージを持たせるために模型などを動かして説明するとより理解しやすいと感じた。	